

第2回 九頭竜川・北川減災対策協議会 議事概要

日時：平成28年6月2日（木）14：00～14：55

場所：福井県国際交流会館 2階 第1、2会議室

【出席者】

東村福井市長、橋本あわら市長、坂本坂井市長、河合永平寺町長、松崎小浜市長、森下若狭町長、内藤福井気象台長、中村福井河川国道事務所長

（以下代理出席）

福井県土木部 大槻参与、九頭竜川ダム統合管理事務所 森川管理課長

【マスコミ】

福井新聞、日刊県民福井、建設工業新聞

【主な発言（発言順）】

《本取組に関するコメントなど》

<福井市>

- ・防災無線に関して、聞き取りにくいのが現状であり、放送等の機械の進展状況も本協議会にて情報交換できればありがたい。
- ・タイムラインでは、台風に関しては気象予測の精度向上や気象台の努力で進行方向が予測でき、あらかじめ避難準備情報を発表することが可能だが、前線を刺激して発生する降雨に対して予測することが難しい。このような事例も含めてタイムラインの精度向上が必要であると考える。

<あわら市>

- ・危機管理型のハード対策に取り組むことは、自治体としてありがたい。
- ・自主防災組織に関して現在の組織率は全体80%（101区）であり100%を目指し組織率の向上を図っていききたい。避難訓練等を通じて実効性のある自主防災組織を作っていかなければならない。

<坂井市>

- ・住民の防災意識を高めていくことが大切で、単独の市だけではなく、市町を越え国や県と連携して、対策や訓練を実施することが大切である

<永平寺町>

- ・自主防災組織の協議会を設置し、自らで考え防災訓練を実施している。
- ・防災アドバイザーの講演を実施したところ約 650 名に参加を頂き、住民の防災意識への関心の高さを感じる。
- ・防災無線のデジタル化を実施しているが、聞き取りづらいこともあり、ケーブルテレビと連動して情報を提供していくことがこれからの課題である。

<小浜市>

- ・ソフト対策については、住民目線での対策を念頭に置きながら取り組んでいきたいと考えている。
- ・自主防災組織が他の地域と比べ組織率が低いため、地域防災力を高めるために一層の育成を図っていきたい。
- ・この取組を通じて沿川住民が安心して暮らせる町づくりを目指していますので、本協議会に対して期待をしている。

<若狭町>

- ・住民の避難について首長の判断が難しい。特に避難指示については責任があり、この協議会を通じて意見交換することにより、その判断材料にしたいと考えている。
- ・

<福井地方気象台>

- ・警報の発表や気象情報に関して、今後は可能性を含めた予報、予測を早い段階に提供していく取組を行っている。このような情報もタイムラインの活用につなげることが出来ればと考えている。またタイムラインを作成する場合は気象に関するサポートは出来ると考えているので、是非ご相談ください。
- ・特別警報については昨年 11 月よりエリアメール、緊急速報メールにて送信することが可能となりましたが、現時点では特別警報だけである。その前段階である各気象警報についても住民の方々の役に立てばと思っている。

<福井県>

- ・県管理河川の浸水想定区域図の作成について、市町が目標時期までにハザードマップを作成できるよう取り組んでいく。
- ・雨の情報だけでなく水位の情報も重要と考え、CCTV カメラの整備を進めている。残りは本年度に 2 台、来年再来年で 5 台となっており、計画上の整備を進めていく。国と県とのカメラ情報の活用についても検討していければと考えている。
- ・住民の避難をサポートするタイムラインの作成は極めて重要だと考えており、水害時の混乱した中で、県からどのような情報をどのような形で伝えることが、一番役に立つのかを協議会の中で検討、相談したい。